【令和５年度全国学力・学習状況調査分析結果】

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立瀬田北中学校

〇調査目的	◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握･分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。 ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。 ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◇結果について◇

今年度は国語、数学、英語の３教科で全国学力・学習状況調査が実施されました。すべての教科で全国の平均を上回りました。以下に各教科における本校の傾向の一部を示します。

国語では、「見出しをつけた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く」など知識・技能に関する問題は特に正答率が高かったです。一方で「見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択しその解読の仕方を書く」「現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く」など、自分の言葉で考えなどを書く問題は全国の平均正答率を下回る結果となり、根拠を明確にして自分の考えを文章にすることに課題があると考えられます。

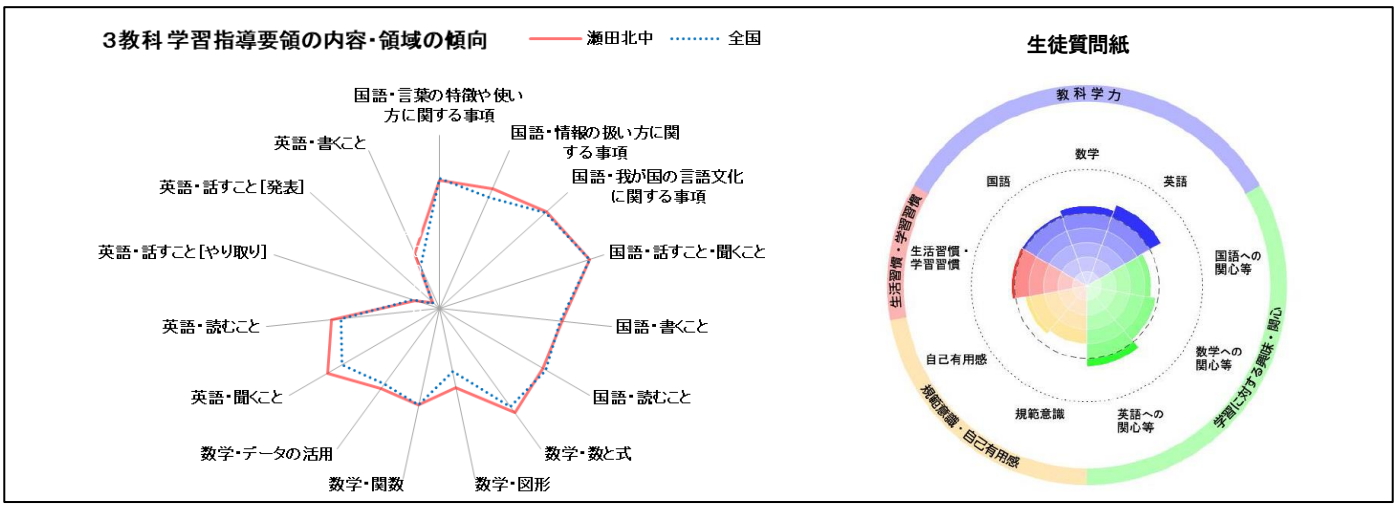
数学では、各分野に関しての基礎的な事項の理解を問う問題について、全国平均と比較して正答率が高かったです。一方で、「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうか」については全国の平均正答率を数ポイント下回る結果となりました。日常生活に即した題材を用いての応用問題に対して、その内容を読み取る力をさらに高める必要があると考えます。

英語では、「放送の中から必要な情報を正確に聞き取ること」、「必要に応じて語句を正しい形に変えたり、その場に相応しい表現に書きかえたりすること」など、基本的な知識や技能に関する問題の正答率が高かったです。一方で、自分の意見やある物事について説明する問題については課題が見られました。生徒質問紙の「自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動」「聞いたり読んだりしたことについて、その内容をまとめたり自分の考えを書いたりする活動」が行われていたかという質問に対して肯定的な回答が全国平均を下回っていたことが要因として考えられます。また、「話すこと」の調査において、全国的に「即興で伝え合うこと」「日常的・社会的な話題に関して自分の考えとその理由を述べ合うこと」に課題があり（国立教育政策研究所「令和５年度全国学力・学習状況調査報告書」より）、本校でも同様の課題が見られました。今後、生徒が英語で自己表現できるような活動をさらに取り入れる必要があると考えます。３教科の結果から、総じて知識や技能を問う問題の正答率が高いことに対して、自分の考えを書いたり話したりすることついて課題があると考えています。

生徒質問紙では、「１、２年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」という質問に対して肯定的に回答した生徒の割合が全国平均に対して高かったです。一方で、いじめや協力に関する質問については全国平均と比較して課題が見られました。また、自己有用感に関する質問については過去２年間と比較して肯定的な回答が増加しましたが、「当てはまる」の回答が全国平均に比べて５ポイント程度低くなっており、授業や特別活動、教員からの声かけなどを通して、生徒の自己有用感をさらに高められる取組が必要だと考えます。

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。

◇強み･弱みレーダーチャート◇



◇指導の充実に向けて◇

① 瀬田北のあたりまえ「あいさつ・礼儀・身だしなみ・思いやり」を励行する。【望ましい生活習慣、規範意識の育成】

② 授業、学校行事、地域 Ranger 活動などを通して豊かな人間関係の構築を目指す。【問題解決力、自尊感情、自己表現力の育成】

③ 学習内容の「めあて」と「振り返り」を大切にし、主体的で深い学びを実現する。【学習に対する興味・関心・意欲の向上】

④ 対話的な活動（仲間、先生、教材、自分自身、先哲の考えなどと）を充実させる。【自己表現力の育成】